

<全体分析>

試験時間	90	分
------	----	---

<p>解答形式 記述(70点)・論述(30点)</p> <p>分量・難易(前年比較) 分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) 大問4題・小問70問・論述2問</p> <p>出題の特徴 時代別では、「原始・古代」「中世」「近世」「近代・戦後」で四分割の配点は例年と同じ。 分野別では、外交から45%程度、政治から30%程度、社会経済・文化からそれぞれ10%程度出題された。</p> <p>その他トピックス 大問IVでは、近世の論述問題が4年連続出題された。 大問IV(1)は、2021年度河合塾テキスト『日本史 論述』第4章 基本問題21で類似のテーマを扱った。 大問IV(2)は、2021年度直前講習『京大日本史テスト』第2講IV(2)で類似のテーマを扱った。</p>

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 <史料>	古代・近世・近代 政治・社会経済 ・外交	A 延長四年二月十三日の民部省符 B 宝暦三年七月の奉公人請状 C 宣戦の詔書(①太平洋戦争・②第一次世界大戦・③日露戦争) (2)「四」(段)は、史料3~6行目の「百六十一歩」・「四段百十一歩」・「五段」・「四段百四十四歩」の合計から正解を導きたい。(5)「醍醐天皇」は、(6)(い)の設問文がヒントとなる。(7)「奉公」は、「給銀」を支給されるという点などから解答したいが、ヒントに乏しい。(8)「江戸」は、東日本における「金遣い」・西日本における「銀遣い」から判断したい。	標準
II	記述 (短文空欄 補充)	原始～戦後 総合	①推古朝における歴史書編纂 ②律令国家の東北支配 ③和同開珎の鑄造 ④称徳朝における仏教事業 ⑤五街道の整備 ⑥池田光政の文教政策 ⑦神道国教化政策の挫折と教派神道 ⑧日朝修好条規の締結 ⑨三・一独立運動 ⑩日米安保体制と基地反対闘争 空欄キ「西大寺」・空欄ク「陀羅尼経」・空欄タ「仁川」がやや難しいが、概ね基本的なレベルからの出題であり、高得点が期待される。空欄コ「伝馬」(役)は、「人馬を常備」したのが「各宿駅」であることから「助郷(役)」ではないと判断したい。	標準
III	記述 (前提文)	古代・中世・近代 総合	A 古墳時代～7世紀の対外交流と文化 B 治承・寿永の内乱 C 近現代の女性と教育 (2)「甲冑」・(7)「切通」は難。Cでは、空欄サ「高等女学校」・空欄シ「母性保護」(論争)・(13)「労働省」・(14)(あ)「姦通罪」など、女性史に関するやや難の事項が多く問われた。	標準
IV	論述	中世・近世 外交	(1) モンゴル襲来後から足利義満政権期までの日中関係 私貿易から国交が樹立された段階への転換に言及したうえ、この間の経済的影響・文化的影響について簡潔に述べたい。 (2) 19世紀初頭から天保年間における江戸幕府の対外政策 異国船打払令の発令、天保の薪水給与令の発令について、それぞれフェートン号事件・アヘン戦争というイギリスの動向と関連づけて論じたい。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準に判断しています。

- ① I～Ⅲの記述 70 点、Ⅳの論述 30 点の配点を念頭に置いた学習計画を立てることが大切である。
- ② 全時代・全分野からまんべんなく出題される。I～Ⅲの記述式で高得点を確保するために、教科書を欄外の脚注なども含めてマスターしたい。
- ③ Ⅳの論述問題は対策の有無によって得点差がつく。早い段階から学習対策を立てて問題演習を行い、できる限り添削指導を受けること。
- ④ 史料問題は基本的に未見史料から出題されるが、市販の史料集などを利用して日頃から史料に慣れ親しんでおきたい。
- ⑤ 京都大学特有のひねりをきかせた設問対策として、夏期・冬期・直前講習および京大入試オープン・河合出版『入試攻略問題集 京都大学 地理・歴史』などの積極的な利用を薦めたい。